

## 南アルプス市立櫛形中学校 後期自己評価書

令和5年1月6日

校長	上 田 直 人	記入責任者	教頭 吉原 仁実
<b>校訓</b> <b>高登彼岸</b> ～高い理想の境地をめざし、その目的地に 登りつくよう懸命の努力を惜しむな～ <b>学校教育目標</b> ○確かな学力 ○豊かな心 ○健やかな体			
<b>I 評価方法</b>			
<p>生徒・保護者・教職員の3者に対して、アンケート形式によりWEB上で回答を得た。質問に対する回答選択肢は4段階になっている。</p> <p>A：とても、よく～している          B：だいたい～している          C：あまり～していない          D：～していない</p> <p>A・B・C・Dの選択肢を点数化し、A=4、B=3、C=2、D=1として集計し、回答者数で割って平均点数を求めた。平均点数は次のような意味を持つ。</p> <p>○全体にプラス評価（A・B）が多ければ、平均点は2.5点以上になり4に近づいていく。          ○全体にマイナス評価（C・D）が多ければ、平均点は2.5未満になり1に近づいていく。</p> <p>なお、生徒、保護者のアンケート回答の選択肢として、E：わからない があるが、これは点数には含めていない。</p>			
<b>II 全体評価</b>			
<p>○2学期以降の教職員の自己評価、生徒アンケート、保護者アンケートのそれぞれの集計結果を見ると、いずれも肯定的な評価が高い結果となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員自己評価結果では、23項目全てにおいて評価の平均が3.0を上回り、前期と比較し改善が見られ、高い評価となった。</li> <li>・生徒アンケートでは、21の質問項目中、平均点数化できる19項目のうち16項目で評価の平均が3.0を上回る結果であった。前期と比較して項目及び数値においても変化は見られなかった。</li> <li>・保護者アンケートでは、16の質問項目中、平均点数化できる14項目のうち全ての項目で評価の平均が2.5を上回る結果であった。そのうち、肯定的な評価の平均が3.0と高い項目数は9項目となり、前期の6項目よりも増える結果となった。</li> </ul> <p>以上のことから、櫛形中学校では学校教育目標の実現に向け、一人一人の教職員が、保護者の理解と協力の下、職務に真摯に向かいあい遂行してきたことで、2学期以降の学校教育活動全般において生徒に適切な指導が行われ、結果、生徒と保護者に肯定的に評価されていると考えられる。従って、本校の学校評価に係る総合的な評価は、PDCAサイクルが活かされた結果、良好な水準にあるといえる。</p>			

### Ⅲ アンケートごとの評価

#### 教職員の自己評価アンケートについて

教職員の回答において、前期の課題となっていた評価の比較的低い2つの項目において、後期は平均点の上昇が見られた。

項目 17「あなたは、学校の教育活動について、お便りやホームページを通して保護者や地域に  
広報していますか。」 前期平均点 2.9→後期平均点 3.3

項目 18「あなたは、教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導  
を行っていますか。」 前期平均点 2.7→後期平均点 3.2

#### 【考察・改善策】

○項目 17 については、依然として収束の見えないコロナ禍ではあるが、できる限り通常の教育活動に戻していく時期と全職員が捉え、それを踏まえ、楡形中学校の教育活動について家庭・地域に広報をし、理解と協力を得ていくように取り組んだ。HPの活用・広報については、「学校のひろば」を充実させていくよう、組織を整え、活用を図ることができた。

○項目 18 については、コロナ禍の制限はあるものの、昨年度に引き続き部活動地域移行、いきいき教育人材の活用、職業講話、芸術鑑賞教室において地域人材の活用を行った。地域の施設の利用においては、強歩大会実施のための練習時より総合公園を利用し、より安全で効果的な行事を実施することができた。コロナ禍以前のような施設訪問は未だに制限があるが、今後とも地域の教育力を活用し、生徒がこの地域で健やかにたくましく成長できるよう、学校以外のリソースを活用しつつ地域の力を取り込んで教育活動を進めていく。

○上記の項目以外にも、学習指導と両輪の「生徒指導」において、諸問題の早期発見・対応に計画的にまた迅速に取り組んでいる自己評価となった。本校のいじめ防止基本方針の指導計画に則り「心配事アンケート」「生活アンケート」の実施、担任を中心とした聞き取りなど、また毎週実施される「生徒指導部会」「生徒理解・支援部会」での情報共有を今後も継続し、生徒一人ひとりへの対応を丁寧に行っていく。

○さらに、小中一貫教育の項目においては、対話を取り入れた授業づくりやスリンプルプログラムの実践に意欲的に取り組んだ評価結果となった。夏以降、楡形地区及び南アルプス市が招聘した曾山先生の講演会への参加し、地域全体でスリンプルプログラムに取り組んでいるという職員一人一人の意識の向上があると考察できる。全体的に、学校教育目標の達成に向け全職員が分掌に責任を持ち、子どものために組織的に職務に励んでいる。

○一方、働き方改革においては、生徒の下校時刻を早めるために、デジ楽採点の試行的導入や時間割の変更、それに伴う清掃の仕方を工夫し職員の退勤時刻の繰り上げ等に取り組んでいるが、自己評価の平均点数は上昇していない。各自がさらなる勤務効率を考えた働き方とライフワークバランスを意識した勤務の在り方を検討していく必要がある。また、お互いの状況を理解し合い、一人で悩むことがないように、管理職は職員のメンタルヘルスに細心の注意を払っていく必要がある。

### 生徒の評価アンケートについて

後期においても、生徒の回答は平均の評価ポイントが 2.5 を下回るマイナス評価はなかったが、プラス評価の中でも評価の比較的低い項目は前期と同様次の 3 つであった。

項目 11 「わたしは、授業中に自分の考えを伝えている」 前期平均点 2.6→後期平均点 2.7

項目 12 「わたしは、家庭学習をしている」 前期平均点 2.9→後期平均点 2.8

項目 13 「わたしは、読書をしている」 前期平均点 2.7→後期平均点 2.8

#### 【考察・改善策】

○項目 11 については「いつも伝えている」「伝えている」と回答した生徒は、前期 53.3%と約半数、「伝えていない」という回答は 12%であった。後期は同じ選択肢で 58.2%、「伝えていない」という回答は 8%となった。授業者が学びあいの授業の中で生徒同士の対話を取り入れたり、スリンプルプログラムを実践したりと後期の自己評価が向上している数値を見ると、生徒の評価は十分とは言えないが、今後とも引き続き「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善に取り組んでいく。

○項目 12 については後期も前期と同様に「あまりしていない」「していない」という生徒の回答が 30%近くあった。学校では 2 学期以降、下校時刻を早めたり、定期テストを 1 日から 2 日で実施したりと家庭における生徒の生活時間を増やすよう工夫改善してきたが、生徒が日常的に継続性・計画性のある家庭学習に取り組んでいる意識が低いことが改めてわかった。ただ、これに関して保護者のアンケートの値はやや上昇していることから、今後とも家庭の協力を得る中でさらに検討・改善を行っていく必要がある。

○項目 13 については、「よく読んでいる」「読んでいる」と回答した生徒が前期は 55.2%であったが、後期は 61.5%と上昇した。火～金の朝読書の時間をしっかり確保し教員も生徒と共に読書をしている姿が増えた。また、生徒の自治活動や秋の読書週間など効果的な読書推進活動が浸透し始めている。読書は学力向上にもつながることから、今後とも学校教育の中で読書活動を推進していく。

全体的には、学校が楽しいと回答した生徒が 90%を超えたことで、生徒が充実した学校生活を送っていることがうかがえる。

### 保護者の評価アンケートについて

保護者の回答については、平均の評価ポイントが 2.5 を下回るマイナス評価項目が前期には 1 つあったが、後期になり改善が見られた。また、評価ポイントが 2.5 を下回ってはいないが、マイナス傾向の割合が高いものは項目 2 であった。

項目 9 「学校は、保護者・地域住民からの声に耳を傾けていますか」

前期平均点 2.4→後期平均点 2.5

項目 2 「お子さんは、授業の内容がわかっていると思いますか」

前期平均点 2.7→後期平均点 2.7

項目 4 「お子さんは、家庭学習をしていますか」

前期平均点 2.8→後期平均点 2.9

### 【考察・改善策】

○項目9については、十分ではないが肯定的な回答が増えた。数値に反映されていないが、「分からない」と回答した保護者が前期21%から後期には17%となり、そのことがプラスの回答に反映された。具体的な方法として、学校の教育活動の変更（試行的に、時間割を変更し下校時刻を繰り上げたことや清掃の方法について工夫改善の取り組み）に関して、三者懇談において保護者・生徒から率直な意見をもらうことができた。また、学園祭実施においては全校合唱や保護者の観覧人数などについて、保護者の要望をできる限り生かすよう、感染症対策を行いながら実施することができた。今後も開かれた学校として保護者・地域の声に耳を傾けていく機会を適切に取り入れていく。

○項目2及び項目4については、ともに関連性が高く、子どもの授業内容理解と家庭学習の充実についてはまだまだ保護者に不安があることがわかる。本年度より3観点による学習評価について、学校として説明責任を果たしながら、職員においては適切な評価のための研究を今後も継続し、自らの授業について生徒目線に立った「授業改善」をさらに進めていくことが重要である。

## 保護者より学校へのご意見・ご要望（抜粋）

### 1, 家庭学習の充実と学力向上について

#### 【保護者からのご意見】

- ・リモート授業になった際に、進行している内容を見ることができなかつたり、学び合いでリモートの生徒が参加できなかつたり等、リモート授業の対応の遅れを感じた。
- ・テスト直前になってもテスト範囲が終わっていない教科があり、テスト1週間前には範囲が終わっているよう進めてもらえると自宅での勉強がしやすい。
- ・高校入試後期試験に向けて、予想問題やよく出る問題等受験対策をしてほしい。
- ・冬休みには、学習プリントを1学期、2学期の復習分をたくさん出して欲しい。

#### 【学校の対応】

- ・一人1台端末を利用して個別最適な学習の実現に向かい市教委でも多くの予算を投入し、環境整備をしています。また本校でもICT機器を効果的に授業で使用するよう全職員で取り組んでいるところです。しかしながら特別教室・体育館には常時Wi-Fiを利用できる環境が整っていないことや教室設置用の端末の数が十分ではないことから、リモート配信が状況によっては不可能となります。これに関しては、今後とも端末配備を含め環境整備を市に要望していきます。学び合いにおけるリモートでの参加に関しては、今後教員の端末操作の技術向上を図りながら、可能な限り校内研や教科部会で方法等を検討していきたいと考えます。（現状では、技術的に可能であるが、操作等が複雑であるため）
- ・長期休業中や入試に向けての課題提供については、本校の教育課程の適切な実施を行ったうえで、各教科で生徒の負担等も考慮しながら課題提供及び内容について検討していきます。

### 2, 学校のきまりについて

#### 【保護者のご意見】

- ・靴下の色について黒や紺の色を取り入れてほしいというご意見がありました。

#### 【学校の対応】

- ・「楡形中学校のきまり」に関しましては、保護者に新入生説明会で周知しています。生徒には入

学後、オリエンテーションを実施しています。個々の問い合わせにつきましては、個別に、ご理解いただけるよう対応しております。ただ、きまりが時代に即したものとなるよう、学校、生徒、保護者が意見を出し合いながら、検討を進めてまいります。

### 3, 部活動について

#### 【保護者のご意見】

- ・部活動の予定を早めに教えていただけると助かります。
- ・土日の部活動が多く、日常生活や勉強に支障が出ている。
- ・良い成績を収めることに力を入れすぎている気がします。

#### 【学校の対応】

- ・本校の「部活動ガイドライン」に示したねらいを達成するため、職員間で研修などを通して共通理解を図ってまいります。また、「やまなし運動部活動ガイドライン」「やまなし文化部活動ガイドライン」「南アルプス市における部活動の方針」を再度確認して順守していきます。

〈櫛形中学校 部活動ガイドライン 「ねらい」〉

- ・学級や学年の枠を越えて、スポーツや文化活動に共通の興味と関心を持つ同好の生徒によって、主体的な活動と運営を行うことで、豊かな人間性の育成を図る。
- ・自己の能力に応じた技能や記録の向上を目指して活動を行い、主体的、意欲的な生活態度を養う。
- ・生徒一人一人の目標と課題を尊重し、仲間と協力し合い、スポーツや文化活動の喜びや楽しさを味わい、豊かな学校生活を経験させる。
- ・それぞれのスポーツ文化を学び、その種目について理解し、自信を持たせる。
- ・一人一人の個性を生かしながら、リーダーを育成し、自主的、意欲的に活動できる生徒を育成する。
- ・地域の教育力を生かし、開かれた部活動運営に努める。
- ・活力があり、充実した部活動運営に留意する。

「やまなし運動部活動ガイドライン」「やまなし文化部活動ガイドライン」「南アルプス市における部活動の方針」より  
(1) 適切な指導の実施について

- ・顧問は、「部活動ガイドライン（活動方針）」に基づき、年間の活動計画並びに毎月の活動計画及び活動実績を作成し、校長に提出する。
- ・顧問は、担当部活動の特性を踏まえた合理的でかつ効率的・効果的な活動を実施し、生徒の目標が達成できるようにする。
- ・顧問は、運営上の工夫を行い、持続可能な運営体制が整えられるようにする。

(2) 適切な休養日等の設定について

- ・学期中は、週当たり2日以上以上の休養日を設ける。平日に少なくとも1日、土曜日及び日曜日に少なくとも1日を休養日とする。ただし、大会参加等のため土曜日、日曜日ともに活動した場合は、休養日を他の日（大会後の平日等）に振り替える。
- ・1日の活動時間は、平日では2時間程度、学校の休業日は3時間程度とする。
- ・顧問は、シーズン期とシーズン期以外の活動がメリハリのついた活動となるよう、参加する大会や練習試合等の見直しを行い、生徒や保護者の負担等が過度にならないようにする。

### 4, その他

#### 【保護者の皆様から学校へ】

- ・いつも熱心なご指導ありがとうございます。（多数のご意見）
- ・子どもが毎日学校の様子や先生の話をお話してくれます。聞くのが楽しみです。
- ・徒歩での登下校をしています。帰宅時間帯が暗くなる前に帰れている事は有り難いです。
- ・生徒たちはコロナ禍で制約の多い学校生活を送っている中で、担任の先生を始め学校の教員の皆様におきましては、子どもたちのことをよく見て頂いており、大変感謝しております。
- ・部活で良い経験をさせてもらって、とても良い成長に繋がりました。
- ・安心メールで学年だよりや、必要な連絡をもらえるのは助かります。